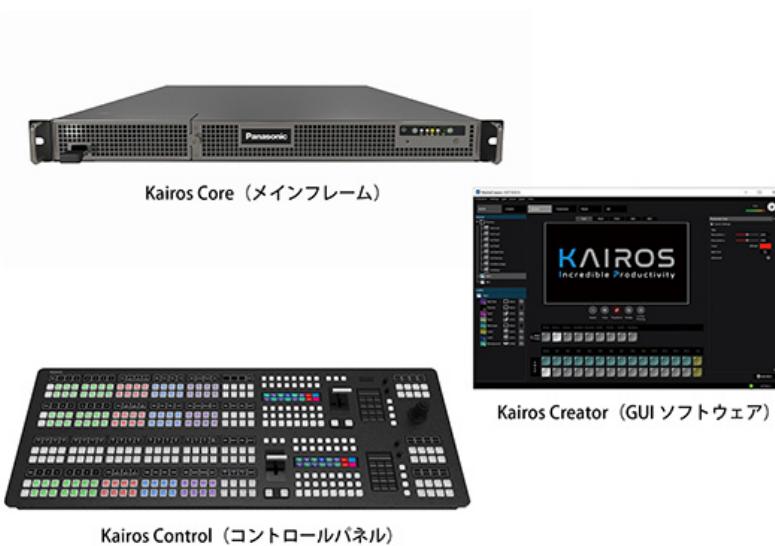


2020年5月7日

高い自由度と優れた操作性でライブ映像制作のクオリティと生産性を飛躍的に向上

IT/IPベースのライブ映像プラットフォーム“KAIROS”を開発

多様な入出力に対応し、解像度・画角に依存しないオペレーションが可能



IT/IP プラットフォーム “KAIROS”

2020 年 5 月 パナソニック株式会社

名称	Kairos Core	Kairos Creator	Kairos Control
品名	メインフレーム (映像信号処理)	ハードウェアコントロールパネル (操作パネル)	GUIソフトウェア (各種設定および操作)
発売時期	2020年夏発売予定		

パナソニック株式会社は、ライブ映像制作のクオリティと生産性を飛躍的に向上させる次世代ライブ映像システム「IT/IP プラットフォーム “KAIROS(ケイロス)”」を開発しました。2020年夏の発売を予定しています。

KAIROSはCPUおよびGPUの能力を活用したITベースのプラットフォームです。ST 2110、NDI、SDIなど多様な映像入出力に対応し、HD/UHDなどさまざまな解像度とフォーマット、16:9だけでなく32:9など特殊な画角にも対応可能です。さらにME数・KEY数の制約に縛られずGPUパワーの許す限りレイヤーを重ねていくことが可能という特長を備え、従来のライブスイッチャーと比べて非常に高い自由度を提供します。一般的な画像編集アプリの様な直感的で使いやすいGUIと、レイアウトを自由にカスタマイズできるコントロールパネルによって、ユーザーの創造性を解き放ち、操作性を高めつつ、省スペースの運用を実現します。最短1フレームの遅延を実現し、PTP (Precision Time Protocol) 同期もサポートしています。またKAIROSは、オープンソフトウェアアーキテクチャーに基づくIT/IP プラットフォームなためシステムの拡張や統合化が容易で、フレキシブル、ダイナミック、かつパワフルな制作システムを構築できます。スポーツ、コンサート、各種イベントの映像制作・会場演出において、表現力豊かなライブ映像を効率よく制作・運用することができます。

パナソニックは、パートナーシップ“KAIROS Alliance Partners”を設立しました。KAIROSはソフトウェアの追加により機能拡張や外部機器連携が容易なため、他メーカー、サプライヤーと提携し、機器接続の検証結果の開示や、より統合されたシステム制御連携を図る為の技術協力などを積極的に行ってまいります。

＜主な特長＞

1. ST 2110、NDI、SDIなど多様な入出力インターフェイスの組み合わせに自在に対応
2. さまざまな解像度・フォーマットに対応、16:9だけでなく32:9など特殊な画角の映像も制作可能
3. ME数・KEY数の制約に縛られず直感的なGUIでGPUパワーの許す限りレイヤーを重ねることが可能

【お問い合わせ先】

パナソニック株式会社 コネクティッドソリューションズ社
メディアエンターテインメント事業部 プロAV商品企画部 マーケットコミュニケーション課
TEL:06-6905-4640(直通)

以上

プレスリリースの内容は発表時のものです。
商品の販売終了や、組織の変更等により、最新の情報と異なる場合がありますのでご了承ください。